

冷凍母乳の対応

働いても母乳で育てたいと思う保護者の割合が増えていることから、保育所においてもそれをスムーズに行うことのできる環境（支援体制）を整備することが大切です。

また、母乳は細菌が繁殖しやすいため、搾乳・保存・解凍の過程で消毒や温度管理などに配慮が必要ですので、保育所だけではなく保護者にも衛生的な取り扱いをお願いすることが大切です。

1 母乳の利点

- (1) 母乳は、乳児の発達に必要なエネルギーやさまざまな栄養素すべてを、適当な割合で含んでいて、生理機能が未熟な乳児であってもほとんど消化・吸収され、内臓への負担が非常に少ない。また、同種タンパク質であるため、アレルギーも起こりにくくなっている。
- (2) さまざまな免疫物質が含まれており、乳児の感染予防に役立つ。
- (3) 授乳により、母子相互作用を高め、母子間の絆を深める。
- (4) 授乳は母体の回復を早める。
- (5) 母乳で育てられている乳児の方が SIDS の発症率が低いことが調査から報告されている。

※SDIS(乳幼児突然死症候群)は、原因や対策もはっきり分からないが、元気に育っていた赤ちゃんが突然、眠っている間に亡くなってしまう病気。

以下の3つのポイントを守ることで発症率が低くなるとされる。

- ① 1歳になるまでは、寝かせる時は「あおむけ」に寝かせる。
- ② できるだけ母乳で育てる。
- ③ タバコは SIDS 発生の大きな危険因子のため、タバコはやめて「クリーンな空気」の中で育てる。

冷凍母乳を受け入れるときの注意

冷凍母乳を望む保護者には、**別紙様式1**の文書について依頼する。

2 保育所における冷凍母乳の扱い方

- (1) 保護者から受け取った冷凍母乳は、名前などの記入もれがないか確認を行い、すぐに冷凍庫に保管する。冷凍庫は、常に清潔に保ち、 -15°C 以下で保管できるよう温度管理をしっかりと行う。
注) 保存する冷凍庫は隔測温度計を備え、毎朝決まった時間に温度の記録を行う。
- (2) 冷凍母乳の解凍は、授乳直前に行う。
冷凍母乳の解凍は、 40°C (温度計で確認する) くらいの湯煎で行い、哺乳瓶に移してから 40°C の湯煎で、人肌 (37°C 程度) まで温める。
注) 電子レンジや熱湯での解凍は母乳成分 (免疫物質など) が変化するので、絶対に行わないようにする。
- (3) 母乳パックの角とハサミを消毒し、角を切って、母乳を哺乳瓶に移す。
注) 成分が分離している時はゆっくりと振り混ぜてから授乳する。
- (4) 解凍した母乳の飲み残しは、必ず廃棄する。

冷凍母乳を依頼される保護者のかたへ（お願い）

保育所では、働いても母乳で育てたいと思う保護者のかたのために、冷凍母乳を受け付けております。

なお、冷凍母乳は直接授乳とは異なり、搾乳⇒凍結⇒保存⇒解凍⇒加温⇒授乳という多くの過程を経るため、衛生的な取り扱いをお願いするとともに、お母様ご自身の健康管理にもご配慮されますようお願いいたします。

また、保育所で冷凍母乳を取り扱うにあたり、次の点について、保護者の皆さまのご協力をお願いいたします。

- お母さまに発熱や下痢などの症状がある場合や、医薬品を服用された場合は、その間の冷凍母乳は控えるようお願いいたします。
- 搾乳した母乳は、専用の冷凍母乳パックを使用し、そこへ、お子さまの名前・搾乳日時・量を忘れずに記入するようお願いいたします。
- 保育所へ持参する場合は、しっかりと冷凍された母乳で、通園途中に解凍されることがないように保冷をしっかりと施し、新鮮な母乳が衛生的な状態で届くようお願いいたします。
- 冷凍母乳は、哺乳瓶からの授乳となります。乳首が変わることにより、母乳を飲まなくなることがあるため、入園前から哺乳瓶で授乳する練習をお願いいたします。

